

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 23 年度 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 23 年 10 月 26 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 50 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 2008（平成 20）年温室効果ガス排出量等について (3) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出席委員	17 人 嘉門会長，熊副会長，泉川委員，井上委員，片山委員，勝浦委員，河崎委員，川原委員，熊野委員，白井委員，田阪委員，多田委員，塚田委員，古川委員，松村委員，山田委員，横山委員
欠席委員	1 人
傍 聴 者	なし （傍聴席：10 席）
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

審議経過および審議結果
協議会を開会し，次の議題について協議し，下記の結果となった。 次のとおり，協議会を開催した。 (1) 会長・副会長の選任について 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会設置要綱第 5 条の規定により会長・副会長を選出した。 会 長 嘉門委員 副会長 熊委員 (2) 2008（平成 20）年温室効果ガス排出量等について （事務局より説明） 以後審議 (委 員) 資料 11 ページの学校給食の中で地場産物を活用する割合というところで，重量比ベースで割合が出ているが，カロリーベースではなく，重量比ベースの方が適当なのか。 また，今，バスの社会実験を行っているが，太田駅から次のバス停まで距離があるので，ちょっと道は狭いかとは思いますが，途中にあるスーパーの辺りにも止まれたら，高齢者の方や車に乗れない方が，お買い物に行くときに便利なのではないか。

審議経過および審議結果

(事務局)

本市の地産地消推進計画にある目標が重量比ベースとしているため、この計画でも重量比ベースとしている。

また、バスのこういった社会実験については、利用を促進するために、種々の意見を頂き、改善するところは改善しながら行っていきたいと考えている。来月初め頃からバスの利用者、非利用者を対象に御意見をいただいて、それを踏まえて、できるだけいいものにしていきたいと考えている。

(委 員)

エコアクション21についてだが、香川県内の登録状況を見てみると、他県に比べて非常に少ない。これは、地域事務局の設置が今年ということが関係あるのかもしれないが、機会があったら促進施策など検討してはどうか。

(委 員)

地域事務局を高松商工会議所に今年の5月に設置し、活動しているところである。エコアクション21はISOに比べて経費が数分の1と、非常に安価になっており、内容的には非常にいいシステムということである。現在では、香川県が中心となって、取得を希望する企業19社が自治体イニシアティブに入って進めていると聴いている。

また、同じ5月に地域事務局を設置した高知では、県に入札の際、ISOと同じように点を与えるということがあるので、普及促進に向けては、行政の方でも、そういう形での後押しが非常に大事なのではないかと思います。

(委 員)

高松市では、エコアクション21について認証されている場合、入札の際、点が付与されている。高松市は大きく、事業所が多いので、その点では期待をしているところである。

(委 員)

私が勤務している会社は県外に社有林を持っており、そこに定期的に間伐、除伐、植林を行っている。山深いことから道路の整備から始まって、相当お金が掛かり、難航しているけれども、高松市内に籍を置く会社が所有している森林、これは市内、県内に限らず、県外に持っているものについても補助を考えてもらえると、いろんな活動がもっと進むと感じた。

(事務局)

森林については、県のフォレストマッチング協働事業等で森林保全に取り組んでいる。

(委 員)

「事業系一般廃棄物減量等計画書」を提出しているが、せっかく提出しているので、毎年削減効果が見られる会社など、そういったところに対しては成功事例として、表彰制度などを設けて、名誉あるものだということを広報することによって、やりがいのあるものにしてもらえたらと考えている。

(事務局)

表彰制度については、今、内部で検討しているところであるが、先進的・画期的な取組をされているところを表彰したいと考えている。

(委 員)

審議経過および審議結果

学校給食において、冬に例えばハウス栽培のものを使うとか、その辺りの認識はどうか。露地栽培とハウス栽培では、エネルギーの使用量が違う。

(事務局)

学校給食では、できるだけ季節のものを使用していると聴いている。

(委 員)

16 ページにレジ袋等の使用量削減に向けて、協働して取り組んだとあるが、マイバッグの持参率は何%くらいなのか。

(事務局)

「レジ袋等の削減に関する協定」を結んでいる業者の間でのマイバッグ率は10数%程度という値を求めているが、市内全体では把握していない。今後も、一社でも多くの店舗に加入を求めて、より普及に努めてまいりたい。

(委 員)

レジ袋に関しては、市民団体の方に、どういう形でレジ袋削減に取り組まれているのか聴きたい。

(委 員)

先ほどの協定に参加しているが、レジ袋を何に使うかと言うと、生ごみを入れて、ごみに出される方が多いので、加重包装をやめるために、ダンボールコンポストで生ごみを減らす活動と、キャンペーンでレジ袋をもらわない、どうしても必要な場合は必要以上にもらわないようにしましょうと呼び掛けている。また、各地域の団体の皆さんが地域の方に呼び掛けている。

(委 員)

グリーンコンシューマーかがわの構成員の一員として活動しているが、毎年10月5日に県内でマイバッグ持参率調査をしている。最初3%だったが、やっと昨年13%になった。

(委 員)

1 ページの温室効果ガス排出量を見ていると、民生部門の家庭、業務部門の排出量が基準年と比べ15%増えているが、人を育てるという施策にもう少し積極的に取り組んでもらえたらと思う。昨年から環境リーダーという人たちを育てる講座を市は開いているが、せっかくそういう方たちを育てているので、その方たちの活動する機会をつくってもらえたらと思う。

(事務局)

既に昨年、講座を受けていただいた方たちは、自主的に会合をもたれて道路清掃などに協力いただいております、感謝しています。今後の活用についても、検討していく。

(委 員)

元々の計画の中で、「マイクロ（小規模）水力発電システム設置の検討」とあるが、資料8ページにある浄水場においては検討したが、条件を満たさないで設置しないこととしたようだが、今後の計画などはあるのか。

(事務局)

計画はないが、水力発電機についても技術革新されており、引き続きそれぞれの部署では検討している。

審議経過および審議結果

(委員)

市でもエコカーの導入というのがあったが、トラック協会でも、業界として環境対策に取り組んでいる。過去からCNG車やハイブリッド車を導入する者に助成をしたり、エコドライブ講習などを行っている。トラック部門については自家用から営業用に転換されており、営業用の方が非常に運送効率がいいため、貨物部門についてはCO₂削減が進んでいると考えている。バスについて社会実験が行われているが、公共交通利用促進を大いに進めていただくよう、側面から応援させていただきたい。

(委員)

2ページに部門別CO₂排出量の推移のグラフがあるが、廃棄物部門が大きく減少している時期があるが、大きな理由があるのか。

(事務局)

大きく減少している平成12年に、容器包装リサイクル法の施行と併せて収集体制を変えた。それまでは地域と業者の間で集団回収をしていたが、市の収集体制に一括する新収集体制になった。また、他の面で言うと、この前後で各種リサイクル法というのが整備されてきており、産業界等においても、材料の減量とか、石油起源製品の軽量化等が進んでいたもので、そういうことも影響しているかと思う。

(委員)

私の住んでいる地区は、道路は発達しているが、公共交通が非常に少ないところで非常に困っている。街中ばかりが発達するという意見も出ているのだが、そういうところはどう考えているのか。

(事務局)

高松市域は広く、いわゆる人口減少地域では、もともとあった路線バスが廃止されたところが、かなり多くある。そういう中では、例えば山田地区では地元が実行委員会を組織して、現在、市の補助金を活用されて、乗合タクシーを走らせている。市総合都市交通計画の柱としても、公共交通が不便なところの対策が重要と考えていて、地域組織が立ち上がってくるところについて、補助制度等を定めているところである。行政・交通事業者頼みでは、なかなか進まないということで、地域の取組も活用させていただいてという制度になっている。そういうものが立ち上がってくるように期待している。

(委員)

ごみの排出量は平成21年度から22年度では少し減っているが、リサイクル率は変わらない。全体のリサイクル量が減ったということかと思うが、市の見解としてはどうなのか。

(事務局)

ごみの排出量については、景気の低迷などを受けて、全国的にも減少傾向にある。ごみのリサイクル率については、上げるのは非常に厳しい状況である。その原因だが、各店舗での回収、企業側の自主回収といったものが生まれ、資源ごみをごみステーションに出すだけが選択肢ではなくなってきた。また、業界も環境自主行動というものを定め、石油起源製品の減を進めており、非常に積極的な企業側の努力がある。容器包装が非常に薄くなったりといったことが、色々な業界で行われているので、そういったことも影響しているのではないかと考えている。そういった状況なので、リサイクル率を上げる

審議経過および審議結果

ことは非常に難しいが、可燃ごみの中の水分の量を絞って、できるだけ総量を減らし、リサイクル率を上げていくという方法を考えている。

(3) その他

(事務局より次回の協議会について説明)

(会 長)

本日の会議はこれをもって終了する。

以 上